

## ベトナム情報レポート（2022年5月31日）

（公財）大阪産業局 ベトナムビジネスサポートデスク  
株式会社N Cネットワーク

2022年第1四半期の経済指標をみると、ベトナム経済の回復の兆しが見てとれます。GDP成長率は5.03%で、前々年同期の3.66%、前年同期の4.72%から上昇。現時点での2022年のGDP成長率の予想は6~6.5%とされていますが、インフレの圧力を受けて下がる可能性もあります。消費者物価指数（CPI）の対前月比率は2022年に入って以降、1月0.19%、2月1%、3月0.7%と、増加傾向にあります。ベトナムでも燃料価格の高騰がインフレに影響しており、最終的に2022年のCPI上昇率は4%を超えるという予想が出ています。鉱工業指数（IIP）は前年同期比6.4%の上昇で、全分野にわたって需給の増加によるコロナからの回復が見られました。そのうち製造加工業の上昇率は7.8%と全体の成長を牽引しています。

2022年第1四半期の貿易収支は、輸入が前年同期比15.9%増の877.7億USD、輸出は同12.9%増の885.8億USDで、8.1億USDの貿易黒字でした。輸入品の内訳は電子・コンピューター及び関連部品が217億USD、機械設備が106億USD、電話及び関連部品が55億USD。輸出品は電話及び関連部品が142億USD、電子・コンピューター及び関連部品が131億USD、機械設備が99億USDでした。主要輸入国は中国（23.8%）、韓国（13%）、ASEAN（9.7%）、日本（5.1%）は4位、主要輸出国は米国（25.6%）、中国（13.7%）、EU（11.2%）、ASEAN（8.1%）、韓国（6.3%）、日本（5.4%）は6位でした。

2022年年始から3/20までの外国直接投資（FDI）は、新規が前年同期比55.5%減の32.1億USD、拡張が同93.3%増の40.6億USD、出資・株式取得が同200%増の16.3億USDで、総登録投資額は89億USDでした。分野別では製造・加工業が59.6%、不動産が34%、投資国は1位シンガポール（22.9億USD）、2位韓国（16.1億USD）、3位デンマーク（13.2億USD）、日本は6位（5.9億USD）でした。大型案件はデンマークのレゴグループによるカーボンニュートラル工場（新規）、シンガポールのVSIPバクニン工業団地（拡張）、韓国のSAMSUNG ELECTRO-MECHANICS VIETNAM（拡張）等です。